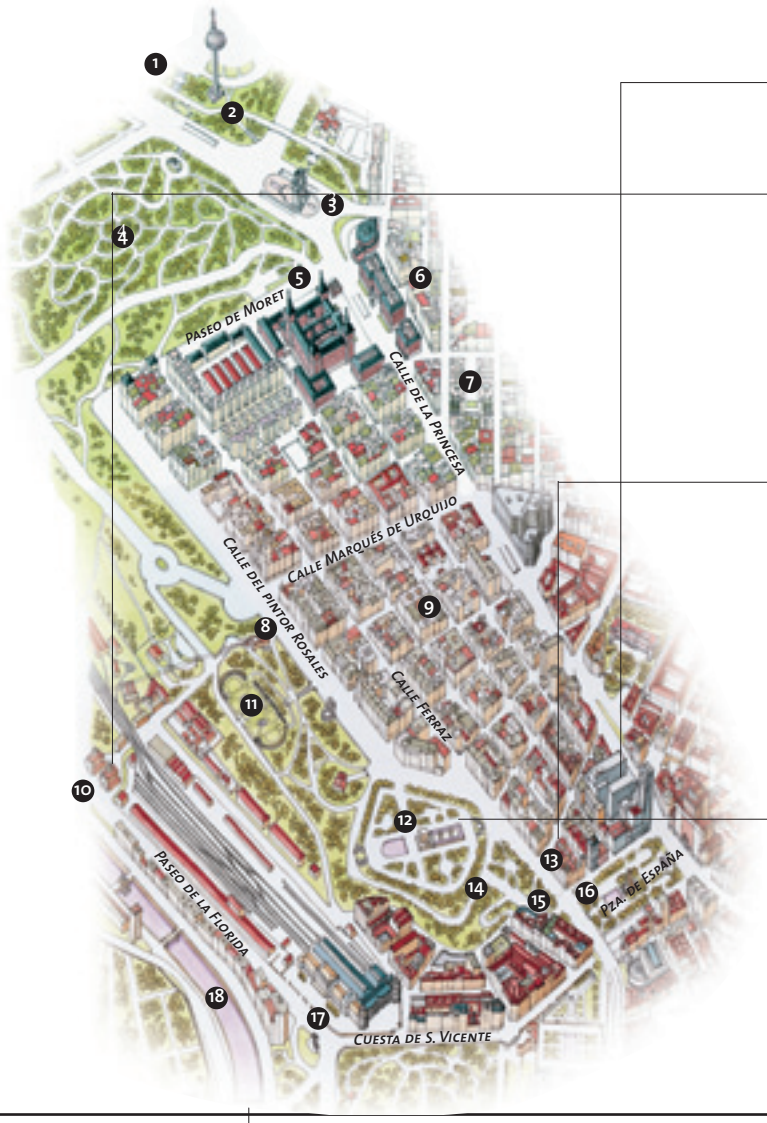
アルグエリェス　モンクロア
Argüelles, Moncloa

広大な緑地帯カサ・デ・カンポを見下ろし、マンサナーレス川沿いの丘陵地に位置して、ピントール・ロサレス通りに代表される美しい遊歩道の多いこのアルグエリェス地区は、市内有数の高級住宅地であり、サラマンカ地区に次いでマドリッドで2番目に高所得者が多く暮らす地区である。大学都市に隣接し、学生寮も多いという立地から、若い世代の流行の中心となっており、週末になるとモンクロア駅界隈は若者で溢れる。

1. 大学都市
2. モンクロア展望台
3. 勝利の門
4. オエステ(西)公園
5. 空軍省
6. モンクロア
7. カサ・デ・ロス・フローレス街区
8. ロープウェイ
9. アルグエリェス
10. サン・アントニオ・デ・ラ・フロリダ礼拝堂
11. バラ園
12. デボ神殿
13. セラルボ美術館
14. フェラス庭園
15. サンタ・テレサ寺院
16. カサ・ガリャルド
17. プリンシペ・ピオ駅
18. マンサナーレス川



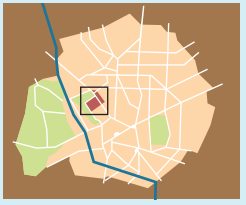
クーボス広場
Plaza de los Cubos
スペイン広場に隣接するこの広場は、映画館やファーストフードの店が一杯だ。

サン・アントニオ・デ・ラ・フロリダ礼拝堂のフレスコ画
Frescos de la ermita de San Antonio de la Florida
マンサナーレス川のほとりに建つ、ゴヤが描いたフレスコ壁画のあるサン・アントニオ・デ・ラ・フロリダ礼拝堂は、マドリッド市の重要な資産のひとつ。

セラルボ美術館
Museo Cerralbo
セラルボ侯爵によって集められた幅広い芸術品の中には、ヨーロッパの主要絵画流派はもとより、スペイン全時代の流派に属する画家達の代表作品が収蔵されている。右はセラルボ侯爵家の紋章

デボ神殿
Templo de Debod
マドリッドで最も古い建造物のひとつ。とは紀元前5世紀頃エジプトでつくられたものを、1970年にエジプト政府がスペインに寄贈したもの。

おすすめポイント



おすすめスポット
- セラルボ美術館
- デボ神殿
- サン・アントニオ・デ・ラ・フロリ
- ダ礼拝堂からピントール・ロサレス通りへのルート。
- ロープウェイでカサ・デ・カンポまで空中散歩。
- モンクロア展望台からの素晴らしい眺望。

おすすめレストラン
- **カンデラ・デ・パラシオ** Princesa, 18
- **カサ・ミンゴ** Paseo de la Florida, 2
- **クエニーリャス** Ferraz, 5
- **フェレイロ** Paseo de la Florida, 5
- **ラ・ボデゴナ** Buen Suceso, 20
- **ラ・アバナ・ビエハ** Ferraz, 27
- **レオカディオ** Bahía, 17
- **マノロ** Princesa, 83

アルグエリェス界隈
Barrio de Argüelles

1865年に行われたエル・エンサンチェと呼ばれる都市拡張計画において、当時マドリード社会に台頭してきた富裕層のために創られた居住地区が、アルグエリャスとサラマンカであった。
中産階級の住宅地と大学都市の存在に特徴づけられるアルグエリェスは、多種多様なショッピング施設、緑豊かな公園や庭園、そして数世紀に渡り王家の直轄領であった美しい所領跡などがあり、他の地域とは違った雰囲気を持っている。

プリンセサ通り
La calle de la Princesa
市内でも有数の商業繁華街で人の往来が多く、映画館、レストラン、カフェテリア、ディスコ、パブ、その他催し物会場など娯楽施設がひしめく。
この通りを辿って行くと、大学都市や空軍省のあるモンクロアに到達する。市内で最も学生や若者の活気が溢れる場所と言える。

ロサレス通り
Paseo de Rosales
20世紀前半のマドリード特権階級居住地の典型。広い遊歩道の片側は豪華な造りの住宅が立ち並ぶ一方で、反対側には市内でもっとも美しい緑地帯のひとつであるオエステ公園が広がる。

セラルボ美術館
Museo Cerralbo
ここではセラルボ侯爵によって収集された、幅広い分野の美術作品を観る事ができる。膨大な収蔵品の一例として、時計、壷、アジアの磁器類・陶器類、ベネチアン・グラスのランプやグランハ・ガラス製のランプ、スペイン刺繍、ブリュッセルのタピストリー、武器・武具、硬貨などが挙げられる。
この美術館で最も注目に値するのは、スペイン派の全時代にまたがる画家達の名作の数々と、ヨーロッパの異なる派の画家達による多くの作品だ。ティツィアーノ、スルバラン、アロンソ・カノ、ヴァン・ダイク、エル・グレコらの油絵、ゴヤ、ティエポロ、ムリーリョのデッサンなど枚挙にいとまがない。

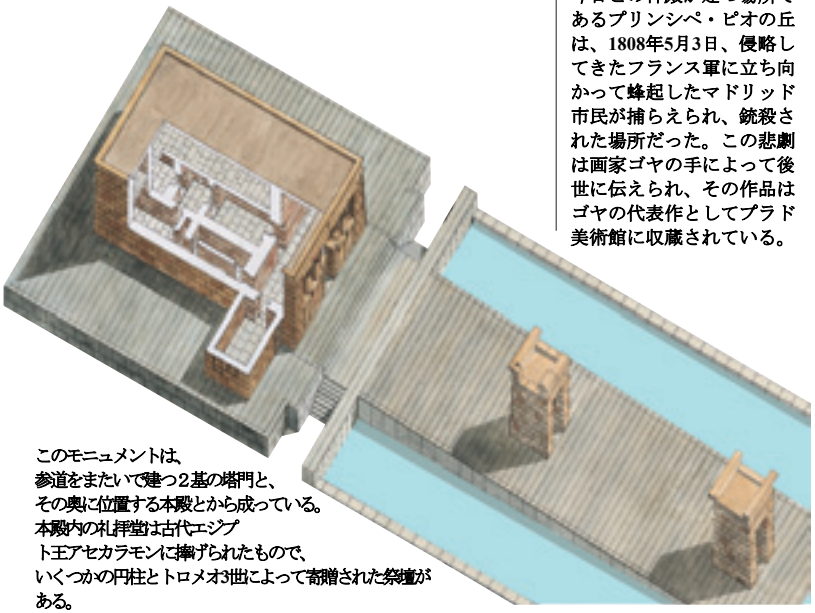
政治家で法律家だったアグスティン・アルグエリェスの記念彫像

デボ神殿
Templo de Debod

セラルボ美術館の向かい側に広がるフェラス庭園は、1808年5月3日フランス軍によるマドリッド市民銃殺という悲劇を目撃した地であるが、1970年、マドリッド市がデボ神殿を建立する場として選ばれた。
この神殿は、アスワン・ダム建設時、多くの考古学的遺産がナイル河に水没するのを回避する為のプロジェクトにおいて、スペインが提供した協力に感謝の意を表して、エジプト政府がスペインに寄贈したもの。

2400年の歴史をもつエジプト神殿
Un templo egipcio de 2400 años
この古代遺跡モニュメントはひとつひとつの石に分解されてマドリッドに運ばれた。この神殿は最初、アモン神に捧げられ、女神イシス信仰の場として、紀元全5世紀頃ヌービアとスーダンの近くに建造された。
数世紀にわたりフィラエ島のフィラエ神殿へ向かう巡礼者たちが立ち寄った場であった。現在、マドリッドで見るこの神殿は、絵文字やエジプトの神々を象徴する図が刻まれた神殿内部も、神殿の前面にあって参道をまたぐ2基の塔門も保存状態が非常に良い。

今日この神殿が建つ場所であるプリンシペ・ピオの丘は、1808年5月3日、侵略してきたフランス軍に立ち向かって蜂起したマドリッド市民が捕らえられ、銃殺された場所だった。この悲劇は画家ゴヤの手によって後世に伝えられ、その作品はゴヤの代表作としてプラド美術館に収蔵されている。



このモニュメントは、
参道をまたいで建つ2基の塔門と、
その奥に位置する本殿とから成っている。
本殿内の礼拝堂は古代エジプト王アセカラモンに捧げられたもので、
いくつかの円柱とトロメオ3世によって寄贈された祭壇がある。

モンクロア
Moncloa

20世紀当初まで牢獄があったモンクロア広場は、今はその当時の面影を残していない。モンクロアが属するフロリダ荘は、当初トレド大司教の所有地だったが、その後王家の所領地となり、今は国有地となっている。現在のモンクロアは、空軍省のいかめしい建物がそびえ、マドリッドの北西に位置する玄関口である事からいつも夥しい車が行き交う場所である。

いかめしく威圧的な空軍省の建物の正面にあたる場所から、コンプルテンセと呼ばれる大学都市へと続く通りが始まる。モンクロアから出る公共交通機関を利用できる。
国道7号線コルーニャ街道の出口にあたる場所、コンプルテンセ大学学長室のある建物の正面に、壮大な「勝利の門」がそびえ、モンクロア展望台(写真左)とともにモンクロアのランドマークとなっている。この「勝利の門」は、高さが39メートルあり、1956年パスカル・ブラボとモデスト・ロペスによって建設された。一方90年代に建築家サルバドール・ペレス・アロジョによって設計されたモンクロア展望台は、マドリッドの素晴らしい眺望を楽しむ為に多く人達が訪れる場所である。

大学都市

Ciudad Universitaria

市街中心地から離れた場所に、20世紀当初のアメリカ都市計画モデルを基に作られたこの大学都市は、モンクロア行政区に属している。
この大学都市建設は、1929年国王アルフォンソ13世の主導で始まった。科学系学部から始まり、最初にできたのは医学部だった。先に述べたアメリカ式キャンパスモデルにもとづき、建築家モデスト・ロペス氏は、まず敷地内を教授陣の住居や学生寮などのある居住区域と学部校舎部分に分け、さらには学部の種類ごとに区域を分割する方式をとった。

空軍省の巨大な建物は1940年に造られた、ルイス・グティエレス・ソトの作によるもので、当初はオフィスとして使用されていた。内部に大きな中庭を蔵しているこの巨大な長方形の建造物は、エル・エスコリアルの僧院を模して創られた。

サン・アントニオ・デ・ラ・フロリダ
San Antonio de la Florida

マンサナーレス川のほとりに位置し、丸天井にゴヤの手によるフレスコ壁画を蔵するサン・アントニオ・デ・ラ・フロリダ礼拝堂は、1919年からそのゴヤの霊廟でもあり、マドリッドの至宝のひとつと言える。
礼拝堂は、イタリアの建築家フランセスコ・フォンタナの指揮下、1797年に造られた。注目に値するのはそのクーポールで、ゴヤのフレスコ画の他にも、スタッコ装飾をほどこした主祭壇や、ホセ・ヒネスの手によるサン・アントニオを描いた祭壇画などが見られる。

▶▶▶ 開館時間

電話: 91 542 07 22
火曜〜金曜：
10時から14時と
16時から20時
土曜,日曜：10時から14時のみ
火曜と祭日：閉館

入館料：無料
www.munimadrid.es

ゴヤのフレスコ画

Los frescos de Goya

ドームと丸天井に描かれた絵画は、ゴヤの生きた時代の様を如実に伝えている。天才画家は、平民の女達、小粋な娘たち、貴族の令嬢にいたるまで、サン・アントニオの奇跡に圧倒される市民達の姿を描き、カルロス4世時代のマドリッドの流行をクーポールに映し出している。またその様子を見下ろしている天使達の顔は、彼が宮廷画家をしていた宮廷の女官たちの顔で描かれている。1798年に120日という記録的スピードで仕上げられたこの壁画は、専門家によると、作者ゴヤが聖人の奇跡というタイトルを借りて、実は闘牛などのお祭りに熱狂する群集の有様を描いたと言われている。

フレスコ画は細部まで丁寧に修復されたおかげで、今日再びその美しい色彩を鑑賞する事ができる様になった。